令和四年

文化庁「ARTS for the future!」補助対象事業

喜多流涌泉能

第九十五回
令和四年十一月十二日(土) 十三時始

六浦　高林呻二

口真似　茂山七五三

独吟　柏崎　高林白牛口二

天鼓　高林昌司

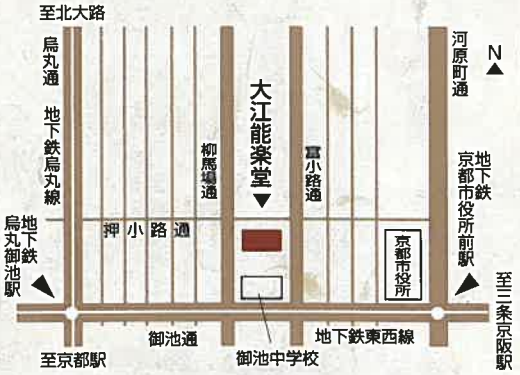
主催　高吟会

大江能楽堂

京都市中京区押小路通柳馬場東入ル　電話 075-231-7620

入場料　前売　7,000円　学生券　3,000円
当日　8,000円　全席自由席

問合先　〒603-8354　京都市北区等持院西町15　高吟会
電話075-462-1490　FAX.075-463-3494
E-mail koginkai@ares.eonet.ne.jp
URL　http://www.eonet.ne.jp/~koginkai/



地下鉄「烏丸御池」または「京都市役所前」下車。徒歩約10分。

動静以天地
視哉涌泉美

鈿之翁

涌泉能番組

高林呻二

六浦　喜多雅人　谷口正壽　前川光範
間　島田洋海　成田達志　森田保美

口真似　茂山七五三　山下守之
松本薫

休憩二十分

独吟　**柏崎**　高林白牛口二

天鼓　福王知登　河村大　中田弘美
間　鈴木実　成田奏　杉信太朗

高林昌司

附祝言

能の特異性

高林白牛口二

能は演劇の一種です。しかし、一般的な演劇と同様には考えられません。その理由は何でしょうか。

大きな儀式が行われた時に、その式典の一部として、芸能が奉納されます。これを式楽と言います。能は武家政治における式楽（式能）として位置付けされ、長年に亘って発展してきました。天皇家や神道では、雅楽を式楽としています。

式楽として番組を編成するときは、必ず冒頭に「翁」を据えます。「翁」から式能は始まるのです。

各流儀において「翁」と言う曲は、一般の曲とは別格に扱っています。この「翁」が冒頭にあるという事が、能は一般の演劇とは、異種のモノであるという事の証拠です。「翁」は演劇ではありません。儀式です。それも宗教的な儀式です。

シテは一座の代表者です。舞台上で使用するご神体である能面を入れた面箱を、千歳または面箱持ちと名付けられる若者に持たせて、最初に舞台正面先まで進み出て両袖の露を払って下座し、北斗に鎮座される「信の神」に向かって最敬礼の拝礼をして「翁」は始まります。この「拝礼」を、精神的に人間として、信仰心を持って出来る者が、太夫と云える者です。この拝礼が何を意味するかは、各流儀において秘事として伝承されています。

「信の神」はマコトノカミと読みます。

この一事が、能は一般の演劇ではないと云う大きな理由です。此の事は秘事の一部になりますが、一番大事な問題なのです。

一日の能は、この重要な儀式が終わったあとの、後宴（あとのうたげ）なのです。後宴の能も、この「翁」精神を体内に籠めたままで、舞い続けられます。

次回予告

令和四年十二月二日（金）十八時十五分始　於　喜多能楽堂
第十四回　高林白牛口二の謡を聴く会
一曲独吟　藤戸　高林白牛口二

令和五年四月八日（土）十三時始　於　大江能楽堂
一曲独吟　忠度　高林白牛口二
羽衣　高林昌司

主催
高吟会

許可なく写真撮影録音録画は、堅くお断り致します。携帯電話　ポケットベル　時計のアラームは、予めお切り下さい。